

第5回上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議（議事要旨）

- 1 日時 平成27年12月17日(木)午後3時30分～午後5時00分
- 2 場所 上天草市役所大矢野庁舎 書庫棟2階会議室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議事次第
 - (1) 開会
 - (2) 上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）等の協議・検討
 - (3) 閉会
- 5 配布資料
 - 資料1 上天草市人口ビジョン（素案）概要版
 - 資料2 上天草市人口ビジョン（素案）
 - 資料3 上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）概要版
 - 資料4 上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）

6 議事概要

(1) 開会

○事務局より、第5回会合を宣言。構成員が数名欠席となるが出席者が過半数を超えるため、本会合が成立する旨を報告し、議事進行を座長に依頼。

(座長)

- ・5回目の会議になる。「上天草に行きたくなる 上天草で自分らしく生きてくなる」と描いてある絵があるが、この中で自分に似た人を探しながら話を聞いてもらいたい。
- ・簡単に振り返ります。第4回委員会ときに多くの案を出してきた。大きく分けると上天草に行きたくなる、上天草に住みたくなる、上天草で働きたくなる3つに分けて議論しようと思いましたが、それだとよく分からない、案が多すぎて全部できるのかと指摘を受けました。あれから1か月、企画政策課を中心に上天草市役所が総力を上げて作られた。まち・ひと・しごと、は地方創生の中で上天草らしさを出せるか。地方創生で大事にしていることは人の流れ、その土地らしく生きること。今上天草に住んでいる人、今は上

天草に住んでいない人といろいろな人がいる。その人達がどのようなきっかけで上天草市に来たくなるのか。自分らしく生きることが計画の趣旨となる。

- ・今日は市長に来ていただいていますので、お話をうかがいたい。

(市長)

- ・第1回目に参加して私の地方創生にかける考え方は、委員の皆様にご理解いただいたかと。今日は結びの会議として委員の皆様にご敬意を表したいと思う。会議終了後に庁内の会議を経て今年中に上天草市の総合戦略の策定になる。
- ・日本は戦後右肩上がりの社会が続き成熟し、日本全国で人口減少社会を本格的に迎えて、どこの自治体でも将来のことを考えている。地方創生と言うが、東京の一極集中の弊害、人口が減っている中でそれぞれの地域で不安があるのも事実。国、県の中央集権的な指導、支援でそれぞれの自治体が同じような動きをしてきた中で改めて地域力、ポテンシャルを試されている時代と感じる。地方創生の法律ができたのが昨年だが、今年は一億総活躍社会という言葉も出てきて分からない部分もあるが、今後、地域のことはそれぞれの地域でアイデアを自分たちで考えていくと理解している。年が明ければ補正の話云々ありますが、そういった事業に対して具体的に行えるかが我々の課題。
- ・先ほどの絵の話は趣味としてスキューバダイビングをしているので左上にいるマリンスポーツと言っている人かと。海の素晴らしさに惹かれて、いろいろな海に行き、自分の経験では3分の2ぐらいは天草の海に入った。海の素晴らしさを求めると島、小さな集落に滞在することが多くなり、その風景、生活に引かれる部分もある。地方創生で考えると天草は交通の便が悪い。まずは交通整備をして同じ土俵に立たないと話にならないといった意見もある。当然考えているが、多くの予算、時間がかかる。今の状況で何がこの地域の発展になるか考えないと地域の停滞が始まる。地方創生は天草のライフスタイルをどうするか。ライフスタイルの中には趣味、生活、住まい、仕事もある。総合的な天草のライフスタイルを全国にどうやってPRできるかが地方創生の大きな考え方になるのかと。仕事も生活も趣味も全てつながっていてリンクしていると考えている。民間の方も含めて行政と総合力を集約して全国に上天草市の魅力を発信できればと思う。
- ・地方創生の会議は5回目だが、地方創生そのものは始まったばかり。今後も皆様方とゆっくり意見交換しながら進めていきたいと思う。来年以降も修正しなければならない部分があれば軌道修正を図りながら地域の将来につ

いて検討を重ねたいと考えている。事業計画も深掘りして行う必要があり、そういった分については随時、意見交換の場を設けながら進めたいと思う。

(座長)

・皆さん覚えていると思うが、今年一年は大いにチャレンジしていただきたいと言っていた。第4回するときにもご指摘がありましたように、計画を作って終わりではない。今日は計画が決まり次第、来年以降の話をしたいと考えている。第1回、2回、3回はワークショップを行いました。皆さんの意見を組んでいただいて政策に上げてもらった。政策を行政の方につくってもらいましたが、皆さんの意見を1つも潰さないようにと言っていたので、考えられない数字も出てきていますが、そこはご指摘いただけたらと。かなりユニークな提案になっていると自信を持って言える。

(市長は別の会合のため退室)

(2) 上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)等の協議・検討について

○アンケート速報についての説明。

(座長)

・転入者へのアンケートで移住定住の部分、問11で転入先を上天草市にしたい理由はなんですかといった間で、全部で12名答えていますが、一番多いのが「緑や水辺、景観などの自然環境が良いから」が多く、上天草らしくて良いと思う。次に多いの「その他」の内容について教えていただきたい。

(事務局(委託事業者))

・速報の段階で調査中。

○ひきつづき、アンケート速報についての説明。

(座長)

・高校生のアンケート問16「次の上天草市内にある仕事で、興味がある、働いてみたい職業はありますか」について。これは他の地域と一緒に示してほしい。なぜかというところ、そういった教育をしないと島に残ってくれないので。

この結果だけ見ても他の地域と変わらないと思うのでそれを分かるようにしてほしい。

- ・中学生アンケートの問16「将来、就職を希望する地域は、どちらですか」について。これは速報版だが、この結果を見てどう思うか。

(事務局 (委託事業者))

- ・分かるようにする。
- ・これは中学生版だが、この年代から熊本県内への移動を考えていると結果を見て思った。

(座長)

- ・ありがとうございました。速報版なので詳しいことは分らないが、今日は施策について話していただくことが大事なので、どうしてもアンケートについての意見があれば質問受け付ける。

○事務局より資料1に基づき説明。

(座長)

- ・基本目標の中で一番に「上天草市への人の流れをつくる」と書いたことと関係する。上天草市の高校を卒業後に一度島を出ることは良いことと前提にしている。ただし、中学校で上天草から島を出ることは良くないと考えている。なぜならば上天草市に住みたくなるの、ウ「市内児童の将来定住希望割合」がある。雰囲気がいいので、同級生で中学校、高校で外に出た人で上天草に帰ってきている人の割合と、高校生まで上天草市にいてそれから外に出て帰ってきている人の割合を考えてほしい。おそらく高校から外に出て行った人はあまり帰ってきてないのではないかと。社会減を抑制するのは大きくない市町村にとっては生命線ではないかと。上天草に生まれ育ち、いいところを知っている皆さんが帰ってくることでできる社会を作るのが、今回の総合戦略の肝だと。1人は絵の真ん中に地元に戻るぞと言っている子がいる。この子が帰ってくるきっかけを考えると、例えば、子どもが産まれた、結婚したとする。そのときに故郷で自分の子どもを育てたいと思える子がいれば上天草市はいいところなのではないかと。もう1人はまだまだチャレンジしたいと言っている。定年を終えて帰ってくる人はいると思うが、もう5年早く帰ってくることでできる環境を作れば55歳で帰ってきて起業するかもしれない。そういった人を応援できる環境づくり。市長は上天草市のライフスタイルをどう売り出すかと話していた。絵の左上に皆さんがいますが、

ここに新しい仲間が時計回りの順で上天草市に入っただけであれば。中学校の教育で問題だと思っていることは、職種の問題。他の地域と同じでは駄目で、上天草には船員といった海運業に携わる方が多くいる。九州でも特に多いのにそういったことを知らない中学生が多いのではないかと。そこが問題で、上天草高校に行けばそういった就職への近道と地元の高校の魅力を教えることができる。そういったことも含めてご質問いただければ。

【意見等】

- ・今回アンケート調査について。これは速報ですが市民の生の声なのかなと。ここに上天草市に住み続けたい理由、住み続けたくない理由といった単純集計が出ていますが、これを人口ビジョンの中にどのように反映するのか。それを踏まえて総合戦略の中に入れると。これからも上天草市に住み続けたいと思いますかの質問で、できれば市外に転出したい、わからないと回答した方をいかに住み続けたい方向に導くかの施策を本来ならば総合戦略の中に盛り込む必要があるのかと。総合戦略の中身もある程度固まっているのでより詳細な取り組みについて今後読めるようにしていただけたらと。今更アンケートの結果を盛り込むのは今のところ厳しいのかと。どうなっているのか。

（事務局）

- ・現段階で人口ビジョンへどのように反映しているのかについて。後の質問にもかかると思うが、本来アンケートは事前に調査して計画等策定するのが筋かと。ただ、事務局の流れが悪く、アンケート調査を実行することが遅れてしまい、現時点では人口ビジョンには将来展望の人口数に反映する合計特殊出生率を算定するための市民の考え、子どもは何人持ちたいかの部分しか反映していない。総合戦略については27年度に策定して31年度まで何もしないのではなく、このアンケートを詳しく分析して、今後の見直し等に反映させたいと考えている。

（座長）

- ・アンケートは予想通りになっているので反映させているつもり。上天草らしく、上天草の課題を取るための政策デザインという形になっている。今回はあくまで計画、戦略なので運用するときはどうするか。アンケートを見ながら柔軟な対応ができればいいと考えている。

【意見等】

・外に出たい理由はなんですかの質問で、学生だと新しい環境で生活したいといった考えは多いと思うが、一般の方で、できれば市外に転出したいが13,4パーセント、わからないが19,8パーセントで数が多い。住み続けたいと思えるかがポイントになると。学生も実際住み慣れたところで生活したいといった意見も多いが、一回は上天草市を出てみたいと考えている子もいる。これは進学先等あるので、これをクロス集計してみて具体的にどうすれば出て行っても上天草市に戻ってきてくれるか。学生が住んでいる環境をどう改善すれば帰ってくるができるか。今からは難しいとは思いますが、総合戦略の中に少しでも臭わせることができる言葉を入れておけば後からでもどうにかなると。

(座長)

・農林水産の計画の立て方は分かりませんが、今回策定するときグループインタビューをしているので、先ほどの住み続けたいかわからない人にその理由を継続的に聞いたり、追跡調査したりしたいと思っている。中高生については僕も思うことがある。いずれにしても声を聞くことが今後の運用には必要と思うので計画だけではなくモニタリングも続けて行いたい。

【意見等】

・資料にあるイラストは活用することができれば活用したい。

【意見等】

・活用していただいて結構。

(座長)

・デザイナーがこの委員会の中にいるのは強いこと。この絵を使っていたらけるのであれば使っていただいてよいと思います。事務局どうですか。

(事務局)

使っていただいて大丈夫です。

(座長)

・ここに書いてある内容は、計画段階で皆さんと話した内容とマッチしていると思う。先ほども言いましたが高校生は出て行ってよいと思っているが、問題は小中学生が出て行くことが問題。出て行った子達が30歳になって帰

ってくるときに家族を連れて帰ってこいと。嫁を外から連れてくれば単純に人が増える。仕事については、手に職をつけて帰ってこいと。例えば、料理人で上天草市の物を使ってもっとおいしい物が作れると。IT企業に勤めていて独立して上天草市の情報を発信できればと。他にも仕事があると思う。そのときに大事なのは同級生との繋がりだと思うので、社会の繋がりを教育の現場から育てることがあっていいのかなと。観光部局と連携して上天草で生まれた方は親の見舞いのときに孫を連れてきたら1割負担とか。そういった家族であること、島生まれであることを活かせるような施策に結びつけていただければ。やれることからしていかないと。動かさないと意味がないので計画で終わらせずに運用いただければと。

【意見等】

- ・海運業の振興と担い手の育成の部分について。これだけ盛り込んでいただきありがたい。今、上天草市の船員は600人ぐらい全国の船に乗っていますが、それでも船員の数足りていない。一般的にいうと40代以上の転職、再就職は厳しいと聞くと、海運業はそういった方でもウェルカムなので。海運業の発展は上天草市の発展になるといった考え方も盛り込んでいけると。

（座長）

- ・地方創生を含めて目を背けてはならないのが、地域課題の克服。新しいことをしてもやりやすいことを行っても意味がない。地域の魅力、特色を活かす。海に囲まれているのは魅力の一つですし、風景も。3つめはお金が回る仕組みをつくる。海運業はいい給料貰えるし、40歳からの転職も大丈夫と。実際に船員の数足りていないとのことなので、職場が少ない上天草市で魅力を活かしながら雇用促進をアピールするのは今の上天草にマッチしていると思う。これも教育分野に関係するかと。海運業はどういった仕事をしているか知りませんが、上天草高校で船員体験を行えば高校の魅力化になるかもしれないし、上天草に住んでいる船員の子どもを通じて話が通じるかもしれない。海運業に関わらず海が上天草の魅力なので一次産業も考えていただければと。海運業の産業支援の担当部署はどこになるか。

（事務局）

- ・担当部署は産業雇用創出課。お配りしている資料4の14ページ「海運業の振興と担い手の育成」で記載をしている。具体的な事業として5つ書いていますが、これの他にも事業を書いていたが、だらだら書いても意味があ

りませんし、目玉ということで5つ書いている。産業雇用創出課の担当とヒヤリングする中で他のメニューを考えているので今後展開があるかと。

(座長)

・産業振興と産業雇用創出課の10年前の仕事は企業誘致だったのではないかと。単純に働き口を持ってきて人口を増やすモデルを10年前まで行って、東京へ行ったり、企業を呼ぶために、企業の税金がかからないように誘致したりする仕事をしてきた部署が海運業に携わる人を増やす仕事をしている。上天草にある物を使って上天草の課題を解決していこうと。役場の皆さんは仕事を変えていっている。ない物ねだりをしてはいけない。中学生や高校生がなじみのある場所に住みたい、買い物ができる場所に住みたいと思うことは分からないことではないが、ライフスタイルを変えていくところから始めないと。その中で民間の皆様もそれぞれ努力をしていると思うが、社会の当たり前を上天草では少し違うということを官民連携して新しい文化を創っていけるかが地方創生の大事な部分。今までできなかったことを今はできるということをアピールできればいいのではないかと。

【傍聴人質問】

- ・「空き家バンクの設置」「移住お試し施設整備事業」とありますが、具体的に予算立て、企画を練ってこちらに書いてあるのでしょうか。
- ・観光についての質問。「観光協会HPページビュー数」と書いてありますが、これも裏付けがあって書いてあるのか。

(事務局)

- ・移住定住の促進の部分は、概要版では3つ上げていますが28年度の新年度予算で対応することとして進めている。
- ・観光の部分はプロモーションの事業等進めていく中でこういったHPのページビュー数を上げております。

【意見等】

- ・ここのHPビュー数は県が示した目標があり、上天草市もそれに沿って同じ割合で31年度の目標を設定している。大体16パーセントぐらいになるかと思うが、観光HPのページビュー数についても同じ16パーセントの割合をかけて算出した数字になっている。

(座長)

- ・観光関係者から見てKPIの中で他のところと違う上天草の売りはなんで
すか。どんな効果がありますか。

【意見等】

- ・この中で言いますと、HPビュー数を出しているところはあまりないなと。
来てもらうためには興味を持ってもらうことなので、あらかじめHPビュー数
が増えることは観光呼び込み客数も増えるかなと。

(座長)

- ・ここの分析は非常に大事。阿蘇市もやっていて、阿蘇市は冬の観光客を増
やしたいと。今年は噴火もあり、大変でしたが、彼らは冬に人を呼び込もう
としている。上天草の場合はオールシーズン対応で上天草市のかき入れ時が
あると。ただ、夏は渋滞するといったことなどをHPに書き対応する。ペー
ジビューを参考に入り込み客数との関連を分析しながら次の戦略を練るこ
とが大事になるかなと。そういったことにも使えるということ。
- ・空き家バンク、移住お試し施設はどうでしょうか。

【意見等】

- ・Uターン、Iターン、Jターンとありますが、Uターンをお願いしている
状況。年2回ふるさとフェアがあり、東京と大阪に行き資料を提出したり、
相談を受けたりしている。そういった関係で何件か実績はできましたが上天
草市は対応が遅れている。何年か住んだら家賃が無料になる、土地を提供す
るなどの施策を行っているところがある。上天草市は実際には動いていない
状況。現状は私たちの頑張りが足りなかったかなと。

(座長)

- ・僕は何年か住んだら家賃が無料になるのはあまり良くないと思う。そこ
にお金をつぎ込むのであれば、何年か住んだら友達を呼びに行く旅費を安くす
るとか、行政のお金で次の移住者を呼びに行くとか。無償化してしまうとも
ったくないと。そういったお金の使い方をしないと1人だけ得をする形にな
る。モチベーションは上がるのは大事だが。1人が得するのではなく、皆が
特になることをしていかないと。来てくれてよかった、面白い人が来てくれ
たと思えるような人が増えるイメージを持っていただけたらなと。

【意見等】

・移住について。先日うちの金融機関に東京から移住を考えているお客様が来て、夫婦と子ども2人いるとのこと。その方は、市のサイトに中古住宅が載っていてそれを購入したいとの要望で、そこに住みたいと。それで住宅ローンを組めないかとの相談があった。そういった方への支援、補助金があるのかを行政にお尋ねしましたが、今のところはなく来年度からということで支援はないとのこと。新しく転職されて住宅ローンを組むことは難しいことなので、そういった方々に対して金融機関、行政が連携して住宅を購入する手立てが出来たらいいなど。

(座長)

・ありがとうございました。なんとかなりませんか。

(事務局)

・ここでできる、できないを言うのは難しいが、国が加速化交付金というものをを出していて、その条件としては地域の広域的な連携、官民連携を重点的に事業として採択される流れがあり、いろいろなところと連携して事業展開できればと。

(座長)

・皆さんのところにも移住定住の話はあると思うが、そのときは相手の目を見ていただきたい。得なことがあるから来たいと言っている人であれば疑わしいが、この人が来ることによって上天草市がもっと魅力的になるという人であれば是が非でもその人の移住定住を協力してあげてほしい。どこでもいいが得なら買ってあげるよといったお客さんもいるので。これについては皆さんの財産になると思うので、本気の人がいれば役所に連絡いただいて、そういった人には手厚く歓迎してあげることができればと。

(意見等)

・上天草市にお金に関する支援はないですが、ない中で何ができるか。上天草に住んで良いところ、悪いところを伝え、来たいと思う人がちゃんと来ることができること。相談を受けることが一番必要なのかなと。窓口は置く必要はあると思うが、上天草に来たい人が来られる制度、空き家バンクの設置等補助を今後設けるとのことなので。来年度は市のPR含めてできるのかなと考えている。移住アドバイザーは住みたい、働きたい人に対する1つの窓口であるので産業雇用創出課、農水課といった課が取り組んでいる事業の

情報を共有する必要があるかと。その情報を 1 つに集約して提供できる仕組みづくりができればいいかなと感じている。

(座長)

・良いことばかり言うのではなく、悪いところも。前に移住女子会に呼ばれて、移住者の女性の方とお話しましたが、男は自分の理由で勝手に移動するが、それに付いてきた奥さん、子どもの心配が大きいと思うのでそういったところのネットワークを大事にしていきたい。これからも移住女子会の方々とお付き合いさせていただいて、グループインタビューをしたいと思っている。上天草は空き家をなかなか貸さない人や、ご先祖様、神棚といった理由があり難しいこともあります。成功していることもあるので。無理だと決めつけずにできる事例を知ってもらいたい。そして上天草市の人に会い、話を聞くのが一番かと。人でおもてなしをする上天草市になればいいと思う。移住アドバイザーの皆様の仕事は大事なことでこれからもプロモーションしていただいて、顔になっていただければと。

【意見等】

・先ほどの説明の中で具体的な事業ではありませんが、ある程度方向性の中に文言として入れているとのことでしたが、それは次回の見直しの中で具体的にしていくことということですか。気になったのはアンケートの中で結婚していない方、結婚したい方が 53,4 パーセントいて、結婚相手と出会う機会がない方が 57,3 パーセントいる。自然減の中で明確になっているのが結婚して子ども産むこと。晩婚化、非婚化でなかなか産めないと。方向性を見せてもらえば結婚・出産・子育ての希望をかなえるという文言があるので、今後の見直しで計画の中に落としていくと書いていいのでしょうか。

(事務局)

・文章的に入れているのは地方創生の交付金の活用のために入れているので、今後具体的な事業が上がってくればできるかと。後は、含みを持たせる部分で「他」、とつけているのでそちらで対応できると考えている。

(座長)

・上天草市の役割としておらかな政策を行っていただけないかなと。上天草市がやっていることに天草市、宇城市の人が来て歓迎できるような運用をしてほしい。上天草市の間人しかひいきしていないとかではなく、もう少し緩くしてもいいのでは。通行するときどっちも通って行くので、そうい

ったところを売りにできるような。そういったアピールを行い、含みがある部分でそういった事業を行ってみては。そうなれば広域本部の方も助かるし、上天草市も潤うのではないか。

【意見等】

- ・ KPI の数字について。移住者数の整備を3、4年前に企画政策課が定めたことがあります。その中の結果では年間200人弱の移住者がいることを資料で見たことがある。ここで差がある利用者は何が違うのか知りたい。

(事務局)

- ・ 移住者数の現状と目標について。移住相談を受けてこちらに来られた件数を反映している。

【意見等】

- ・ 相談を受けてからの移住者数ということでもいいですか。いろいろなプロモーションを仕掛けて相談をせずに来た移住者は移住者ではないということですか。
- ・ 起業の定義について。起業者数がトータル5名ですが、何を起業と定義するのか。知っているだけでも2人起業している人がいる。もっと高い数字でもいいのではないか。

(事務局)

- ・ これは熊本県下で今現在、移住促進戦略会議というのが立ち上がっていて熊本県も移住の定義をどうするか話し合っている段階で、今年度中にそれを定めて来年度から移住者をどう把握するか決めて取り組むとなっている。現状では住民票を持って移動された方に簡単なアンケートを行うことが有力な手法として取り上げられている。今後見直しの際にここの数値をどうするのかは決定後に見直しをしたい。
- ・ これは累計の5人ではなく、平成31年度が5人で、トータルではなくその年度で5人という考え方。

(座長)

- ・ おそらく行政が関わって起業した方が5名かと。知り合いの方が2人起業したということでしたが、自主運営で起業した人はカウントされていないと。ただ、そんなことを言っている場合ではないかと。もっとざっくりばらんに起業数を20にするとか。起業のメッカと言われるようになるとか。そうい

たったことも大事。これは行政の計画なので行政はこういったことをしていますが民間はもっと多いといった書きぶりになるかと。移住定住についても新しいスタンダードができつつあるので、納得できる数を示していただければと。ぱっと見で少ないなと思われたら行政は頑張っても意味をなさないと思うのでしっかりと説明書きを。

【意見等】

・補足ですが、東京大阪のふるさと会議に参加したときに話しますが、この10年で人口が約6,000人減っている。それを説明するときは産まれてくる赤ちゃんが200人、亡くなった方が400人でマイナス200人ですと。これは自然減で社会減として転出する方が1年間に1,200人いる。転入される方が800人でマイナス400人。それを足すと年間600人減っている。先ほどの数字は600人ずつ減っていると。資料2の13ページに書いてあるが、さっきの数字は企画政策課の割り振りを通じて、私たちはお手伝いしようという形での数字の目標として考えている。

(座長)

・時間が過ぎていきますので最後にしたいと思うが、女性の意見が少ないので、傍聴席にいる女性の方にコメントをもらいたい。この会議はどう見えているか。

【傍聴人】

・この会議を見ていて政策について詳しく質問したり、数字にこだわるより未来について語りあったりしたほうがいいのではないかと。
・市民として市役所に入るときに入りづらいので雰囲気作りもしてほしい。

(座長)

・厳しい意見をいただきました。

(座長)

・数字の話も大事だが、未来を語り合う会議にならないといけない。この委員会は来年以降もあるので大いに夢を語り合えるような会議にしたい。市民の感覚として市役所に入りづらいとのことなのでそこも努力をしていただきたい。上天草市は市役所と市民が仲良しと言われるようなところになれば素敵だと思う。

・時間が過ぎましたので終わりたいと思う。計画の数字も皆さんが頑張った結果だと思いますので今日はこれで閉めたい。8月から会議をして、楽しい会議ができたかなと。来年度もお世話になると思うが引き続きお願いしたい。最後は拍手で終わりたい。

(一同拍手)

(3) 閉会

第5回上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議 出席状況

氏名	所属等	出席
石炭 圭一郎	上天草市建設部建設課 係長	
入口 紘光	上天草市経済振興部観光おもてなし課 参事	○
岩崎 敏治	株式会社隆勢 代表取締役	○
岩原 慎一郎	株式会社肥後銀行大矢野支店 支店長	○
大野 公二郎	上天草市総務企画部総務課 係長	○
片島 荷風	デザイナー	○
北垣 洋	北垣水産	
木下 榮	上天草市セカンドライフ支援ネットワーク 会長	○
迫本 潤一郎	上天草市経済振興部農林水産課 課長補佐	○
篠田 良	上天草市教育委員会事務局教育部社会教育課 係長	○
杉本 健一	一般社団法人天草四郎観光協会 事務局長	
園田 健吾	上天草市総務企画部総務課 主幹	○
田口 英明	上天草市教育委員会 教育指導員	
田中 尚人	熊本大学政策創造研究教育センター 准教授	○
田中 道範	上天草市社会教育委員長	
永野 富子	上天草市健康福祉部健康づくり推進課 係長	○
西川 みち恵	社会福祉法人上天草市社会福祉協議会地域福祉課 課長	○
西原 一雄	上天草市建設部都市整備課 参事	○
一 喜美男	熊本県天草広域本部 総務部長	○
濱田 真和	株式会社マルマサ浜田鮮魚 取締役	
濱崎 富雄	上天草市教育委員会 中央公民館長兼市立図書館長	○
深谷 恵了	姫戸ひかり保育園 副園長、寺院僧侶	
益田 佳世	上天草市健康福祉部福祉課 係長	○
松本 俊博	熊本県立上天草高等学校 教頭	○
宮内 勝幸	あまくさ農業協同組合大矢野統括支所 指導販売課長	○
森 隼人	上天草市健康福祉部高齢者ふれあい課 参事	○
矢田 健一郎	株式会社熊本銀行大矢野支店 支店長	○
吉野 誠	上天草市市民生活部環境衛生課 主事	○
吉本 博明	上天草市市民生活部税務課 主幹	○
渡邊 一成	天草信用金庫企業業務部・地域創生室 理事部長	○